

ACTIVEFOCUS™と ReSTOR®+3.0Dの使い分け

留守:私の場合、基本的にファーストチョイスはACTIVEFOCUS™と
考えています。ACTIVEFOCUS™の場合は、「50cmの手を伸ばした状態
から遠くまである程度連続で見えるイメージですよ」というお話をし
ます。-2.0D以上の近視の人に対しては、「ReSTOR®+3.0Dにした方が今
までと同じ様なイメージで手元は見えやすい。遠くも見えるけれど、中
間が落ち込むという報告やデータが出ています」というお話をします。グ
レア・ハローについては当院のシミュレーターを見せて違いがあることを
説明しています。ReSTOR®+3.0Dの必要性も無いことはなくて、近視
で手元を見たいという人や、手元の作業が多い人はやはり
ReSTOR®+3.0Dを選択される方が多いので、選択肢としては1本には
絞れないかなと考えています。

沖田:当院では術前に視力表の字を見ていただいて、どのくらいの字の
大きさが術後に見たいかを聞きます。多くの方は0.8程度の指標を見て、
「ここまで小さい文字は必要ない」とおっしゃられます。だいたい0.4~
0.5程度の文字が見えたら十分という人が多いです。そして、夜運転する
ことがあるとACTIVEFOCUS™を選択します。やはりもともと近視で手
元もきちんと見えていた人は小さい字も見えないといけなないので、
ReSTOR®+3.0Dを選択します。さらに、ご高齢の方で夜間に外へあまり
行かないという人は、アルコン社から提供されているハロー・グレアの写
真(図1)を見せながら説明しますが、夜間に外へ行かないので「こんな
のは見たこともないし分からない」とおっしゃられます。そういう人にはあ
えてACTIVEFOCUS™を入れてReSTOR®+3.0Dを入れて、手元を
しっかり見えるようしています。夜運転することがあるのか、あと
手元の字はどのくらいのものを見たいか、というその人の希望を聞いて
レンズを選択します。



あと私は、ACTIVEFOCUS™を入れて1週間後にもう片眼の手術をし
ますが、いざやった後に「もう少し手元が見たい」という人に対しては、もう
片眼ReSTOR®+3.0Dを挿入するBlend Visionを選択しています。そう
すると、両眼で近方の視力が0.8くらいまでカバーできます。ハローは
ACTIVEFOCUS™を両眼入れた方よりも少し強く感じるようです。

留守:片眼だけで見えにくいと言っても、両眼インプラント後にけっこう両
眼視で見えるという症例を経験していますが先生はいかがでしょう。

沖田:私も留守先生と同じようにそのような症例も経験しています。片眼
手術後に、そこそこ見えています、という患者さんには両眼
ACTIVEFOCUS™を選択するようにしています。どうしても、もう少し手

元が見たいという場合にもう片眼にReSTOR®+3.0Dという選択をして
います。

留守:私の場合、本当に小さい文字を見たいという患者さんに対して
は、その場で+1.0Dの眼鏡を掛けてしまいます。そこで手元が見えない
部分の悩みの解決をしてしまいますのでReSTOR®+3.0Dを入れず、そ
のままACTIVEFOCUS™を両眼に入れることが多くなっているのかなと
思います。Blend Visionでも、両眼同じレンズを選択する場合でも、医
者としては選択肢があることは良いことですね。いろいろな対応の仕方
とそのツールがそろっていることが重要だと思います。

乱視軽減の重要性

沖田:私は術後乱視が0.5D以下になるような術前のプランニングを行
い、乱視コントロールしています。術後乱視が0.5Dを超えると視力を
測ってもスラスラ読めないことが多いみたいです。

留守:私も乱視はできる限り減らすという方向で考えています。トーリック
レンズの適応であれば全て入れていきます。レンズがある限り矯正する
という方針を取っています。術前に自分の惹き乱視をしっかりと把握した上
できちんと乱視コントロールする様にいつも心掛けています。

鬼塚:検査する観点から言っても、乱視は無いに越したことはありません。
例えば両眼で乱視量が異なる人の場合、乱視の残っている眼の方が
視力検査時の読むスピードがゆっくりになります。沖田先生がおっしゃ
る様にスラスラ読めないことが多いです。さらに単焦点と老視矯正レン
ズを比較すると、老視矯正レンズの方がやはり残余乱視の影響を受けや
すいと感じています。やはり乱視が残っていると老視矯正レンズの場合
は、読むスピードがすごくゆっくりになりますし、遠方視力の出方に差が
あるように感じます。遠方がスッキリ見えないと近方も視力が出にくい印
象です。レフラクトメーターで検査する段階で0.5Dくらいの乱視だと視力
検査もスムーズにいきます。

留守:検査される方のことも考えると術者も乱視に対する意識をもっと上
げる必要があると感じます。私の場合、老視矯正も単焦点も全て同じア
プローチでやっています。レンズの種類に応じてさじ加減をするよりもい
つも一律にする方が平均的に皆さんに良いものを提供できると思ってい
ます。老視矯正レンズでも、単焦点レンズでも、乱視が無いとまず見え
ずし、不確かなボヤッとした見え方よりもクリアに見えますからね。乱視は積
極的に矯正した方が良いでしょう。トーリックレンズに求められるポイント
は、まず翌日にずれないことと、手術中に回転させやすく合わせやすい
ことです。そういった意味でアルコン社のAcrySof®トーリックシリーズ
は、術中に開くのが早く回転もさせやすいですし、術後の軸ずれも少ない
ので非常に使いやすいです。乱視矯正を積極的に実施する上で、重要な
ポイントを押さえているレンズだと思います。

沖田:乱視矯正する場合、選択するレンズも重要です。術前プラン
ニングした乱視軸に術後しっかりと固定されていると確実に矯正効果は望
めますし、術者としても非常に気持ち良いです。ACTIVEFOCUS™も
ReSTOR®+3.0Dもトーリックレンズがありますので、しっかりと乱視矯正
できるというオプションを患者さんに提供できることは良いことですね。

老視矯正レンズ 選択のすすめ



Reference

1) Alcon Internal Bench data(TDOC-0050441)

ACTIVEFOCUS™のポテンシャル

沖田:まずACTIVEFOCUS™の遠方視力は言うまでもなく良いですね。手元に関しても遠・中と患者さんにお伝えして、「小さな文字を読む場合は眼鏡が必要かもしれませんね」と患者さんの期待値をコントロールしていますが、実際はそれなりに見えていて、「ここまで見えるのであれば十分な」という人は多いです。ただし、長時間にわたり読書をされる方の場合、たまに老眼鏡を使う人がいることは確かです。そのような人でも小さい字を読む場合は老眼鏡を使う前提でACTIVEFOCUS™を入れていきます。我々の施設ではハロー・グレアが少なく夜の運転ができて、遠方がしっかり見え、かつ手元がそれなりに見えたら良いとおっしゃられる方が6割くらいいますが、ACTIVEFOCUS™を入れた患者さんは皆さん大変満足されていますね。他社Aエシレット回折型レンズはハロー・グレアやスターバーストを訴えられる患者さんが多いです。

留守:沖田先生と同じ印象ですね。遠くは単焦点と同じくらいスカッと見えるという印象です。術後の手元に見え方についても沖田先生同様に最初からお話していますので患者さんからの不満の声はありません。術後ももう少し手元が見たいという患者さんに対しては、+1.0Dの眼鏡を処方しています。必要に応じて手元を見たい場合に+1.0Dの眼鏡を使用させていただくことで、総合的な満足度を高めることができると考えています。ACTIVEFOCUS™でもそれなりに手元が見える方もいらっしゃいますので+1.0Dの眼鏡を処方する患者さんは半分くらいの印象です。ACTIVEFOCUS™の手元の見え方についての術前の説明ですが、焦点距離をセンチメートルで説明してもなかなか分かりにくいと思いますので、「基本的にこのレンズは手を思い切り伸ばし切ったくらいがベストになるような感覚で作られているレンズです」と話した後に、「もう少し手元

が見えたとおっしゃられる患者さんもいますが、その手元というのは細かい字がいっぱい並んでいるものではなくて、細かな字2~3行程度であれば見る力がある人が多い印象です。ただ、小説など字が詰まった細かなものを長時間読む場合などは、軽い眼鏡に助けをもらった方が楽なようです」と説明しています。私は老眼鏡とはあえて言わずに、少し軽い眼鏡という言い方でお話しています。それは少し軽い眼鏡であれば遠くもある程度見えるからです。

沖田:+1.0Dの眼鏡処方良いですね。擬似的に-1.0Dの遠方のずれをやっているということですので、恐らく1メートルくらいにピントが合って室内という環境でも満足度を向上させることができると思います。

留守:気になる視力ですが従来の老視矯正レンズの場合、遠くが見えている場合でも今までは1.0くらいが多い印象です。ACTIVEFOCUS™では1.2、1.5という裸眼視力が出る人が増えてきました。その分、少し手元が見えにくいかなと思っても遠くの見え方が勝っているということで、全体的な満足度はやはり高いです。

沖田:手元の見え方については、両眼で見て30cm近見視力表の0.5前後の文字が40~50cmで読めていますので、「こんなに見えたら十分だ」という人が多いです。

鬼塚:検査の過程のことをお伝えすると、やはり遠くがスラスラ見えて、手元は少し見にくいかなと言われることはあります。40cmの距離でも片眼ずつだと0.4くらいであっても両眼になると0.6~0.8くらいまで見えますので、ACTIVEFOCUS™で日常生活は不自由ないとおっしゃられます。コントラストについてもACTIVEFOCUS™は片眼でも正常値に入ることが多いので、視力検査の際に時間がかかるという印象です。ACTIVEFOCUS™やReSTOR®+3.0Dはレフラクトメーターの値と相違がありません。

ReSTOR®+3.0Dのポテンシャル

沖田:ReSTOR®+3.0Dでも患者さんの満足度は高いですね。両眼で見ると手元から遠方まで1.0付近の視力が出る方が多くいます。手元も両目で見たら30cm視力表の0.8の文字が見える人もいっぱいいます。ハロー・グレアについては運転できないほどという方は少ないのですが、ACTIVEFOCUS™と比べると訴えられる頻度は多い傾向にあります。他社A回折型と比べるとハローは少ないです。術前に文字を見ていただき「どの字を見たいですか」と必ず患者さんに希望を聞いているのですが、近見をきちんと見たいという患者さんや職業柄きちんと手元を見ることが多い、もともと近視で手元がすぐ見えていた人、このような患者さんは断然ReSTOR®+3.0Dが良いと思って使用しています。主婦の方に入れても家事など全く問題ありませんでした。

留守:ReSTOR®+3.0Dしかない時には気づきませんでしたが、ACTIVEFOCUS™を使用した後の自分のデータを比べるとやはりハロー・グレアについてはACTIVEFOCUS™の方が少ないという実感があります。私の場合はもともと近眼の人、-2.0D~-3.0Dくらいの手元がちょうど良い距離で見えていた方は、ReSTOR®+3.0Dを選択します。ReSTOR®+3.0Dの場合、40cmで0.7くらいの視力は担保できて、たまに反応の良い人は1.0が出るという印象です。

沖田:ReSTOR®は+3.0Dですので、手元を求められる患者に対して40cmは遠いのではないですかと聞かれることがありますが、当院では

一般の人の老眼鏡の眼鏡処方をする場合も30cmで合わせておらず40cmで合わせていますので手元を見たい患者でも40cmが見えれば十分だと考えています。以前当院の職員にシミュレーションで体格差に関係なく自分の見やすい距離で本を持って読んでもらったことがありますが、みんな30cmで見えることはありませんでしたので、30cmという距離はそんなに必要な距離ではないのではないかと考えています。さらに、普通の近視の人を単焦点で手元に合わせる場合も-3.0Dに合わせず、-2.0Dや-2.5Dくらいで合わせますが、皆さん「ああ、これでよく見えます」とおっしゃられますので、30cmという距離は少し近過ぎるのではないのでしょうか。

留守:全く同意見です。

鬼塚:単焦点で遠方にバッチリ合っている方に術後眼鏡処方する場合も3.0Dの加入は入れません。だいたい2.5D加入が多いですね。当院では患者さんご自身がどのくらいの距離を見たいかというところで眼鏡を処方します。平均的に40cmくらいの距離で皆さん見られますので、ReSTOR®+3.0Dの焦点距離とばっちりだと思います。40cmという手元の距離は自然な距離だと思います。

留守:当院は単焦点挿入後に近用眼鏡の処方をするときに、基本的に遠近両用眼鏡を勧めています。遠近両用だと老眼鏡のように眼鏡の掛け外しをする回数も減り、「楽ちん」とおっしゃられる方が意外と多いです。ACTIVEFOCUS™にしろ、ReSTOR®+3.0Dにしろ、単焦点のようにどこか1点の焦点だけではなく、2つの焦点が見えるということは患者さんにとって良い選択肢になると考えています。

沖田 和久先生
新城眼科医院

留守 良太先生
トメモリ眼科形成外科

鬼塚 早紀視能訓練士
新城眼科医院



ACTIVEFOCUS™
Optical Design



販売名:アルコン® アクリソフ® IQ レストア®
+2.5D シングルピース
医療機器承認番号:22600BZX00179000



ACTIVEFOCUS™ Toric
Optical Design



販売名:アルコン® アクリソフ® IQ レストア®
+2.5D トーリック シングルピース
医療機器承認番号:22700BZX00006000